

〔あまカラ〕と〔中国菜〕—戦後日本における食文化冊子の東西比較—その②

青木正児および〔中国菜〕の発行人・原三七と奥野信太郎などの寄稿者を中心に

【サマリー】

重 森 貝 崙 ばい ろん

〔あまカラ〕と〔中国菜〕その①は、〔あまカラ〕誌の実質的創刊メンバーの一人で、創刊号以来ほとんど巻頭を手練の食べもの随筆で飾っていた人気小説家・小島政二郎と、台湾国籍の中国人で、中国の食について書かせたらその右に出るものはいないと思われるほど秀抜な書き手・邱永漢が話の中心である。

そしてその②は〔中国菜〕の創刊発行人であり、湯島聖堂を拠点に、戦後日本における中国食文化の普及啓蒙に努めた原三七と、〔あまカラ〕誌の異色の寄稿者、中国文学界の碩学で味わい深いエッセーをものする青木正児、同じく随筆の名手にして中国文学者・奥野信太郎などの人たちの事跡を中心にまとめたものである。